

環境と両立する経済社会

— SPEEDED セミナーより ①

東京大学生産技術研究所の山本良一教授が代表幹事を務める「エコエフィシエンシー(環境効率)とエコデザインに関する特別研究会」(SPEEDED。http://www.speeded.org)は先月三十日から三日間、神奈川県箱根町の小田急・山のホテルで、恒例の合宿セミナー(共催・日本興亜損保)を開き、八〇名以上の関係者が参加した。今回のテーマは「環境と両立する経済・社会をどう実現するか」で、学識者や会員企業等による計二六件の講演が行われた。以下、その主な講演要旨を連載で紹介する。

アメリカのゴア元副大統領 画も公開した (http://www.climaterealist.net/)。『An Inconvenient Truth』(ある不都合な真実)という本を出版し、私が責任編集した『気候変動同時ドキュメンタリー映画12.2C』(ダイヤモンド

地球温暖化編 ①

東京大学生産技術研究所教授

やまもと 良一氏



4、5年が運命の岐路

社刊)の構成と似ている。サマーシとだ。すなわち、地球生態系はいま大変な状況にある。病気に例えると、まだ助かる見込みはあるものの、本格的治療を受けるの。あと一〇年もないかも知れない、だから一刻も早く治療を受けなさいという趣旨だ。また、アメリカの科

社刊)の構成と似ている。サマーシとだ。すなわち、地球生態系はいま大変な状況にある。病気に例えると、まだ助かる見込みはあるものの、本格的治療を受けるの。あと一〇年もないかも知れない、だから一刻も早く治療を受けなさいという趣旨だ。また、アメリカの科

一方、カナダで、京都議定書から離脱したがっている。とされる保守党のハーパ一内閣が四月に誕生したことで、世界の温暖化懐疑派が勢い付き、「多国籍懐疑派遣合」という六〇名くらいのグループが、議定書を議論にかけるという公開書簡をハーパ一首相に送った。これに対し、由々しき事態だと全カナダの二二三名の科学者が立ち上がり、温暖化の進行はまぎれもない事実で地球環境に大変なインパクトを与えつつあると、対抗した。私がこの二つの書簡を仔細に分析したところ、懐疑派連合のメンバーのうち約半分は名誉教授など現役でない教授であり、一方の立ち上がった二三名のうち六〇名は第一線の科学者だった。年寄りの懐疑派と第一線の科学者の主張のどちらが正しいか、私は明らかに二〇〇一年のIPCCレポートは、いわゆる「自然変動」派から批判を浴びたが、アメリカのナショナル

山本教授は、二十二日(土)十九時五十七分から日本テレビ系で放映予定の「世界一受けたい授業」に出演し、「気候変動12.2C」について講義する。